

ねりまの文化財

第35号 平成9年7月

むかしばなし特集

練馬区教育委員会生涯学習課文化財係

〒176 練馬区豊玉北6-12-1 ☎3993-1111 内線7141

ねりまのむかしばなしから

伝説の地をたずねてみましょう！



さん ぼうじ いけ さん くら

三宝寺池の金の鞍

(石神井台1丁目／石神井公園)

都立石神井公園としまし三宝寺池南の崖の上には、鎌倉末期から豊島きよしま氏の城館じょうかんがあった。しかし文明9年(1477)旧暦4月、太田道灌軍おた どうかんに攻められて落城し、400年余り続いた名家は滅亡した。

この石神井城落城にまつわる伝説がいくつか残されている。その一つに「金の鞍やすつね」伝説がある。

豊島氏最後の城主泰経は、道灌軍に石神井城を包囲され、城の命運もこれまでとみた。そこで、白馬に家宝であるさんむち然と輝く金の鞍をつけ、ゆうゆうと城を出ていった。そして背後の丘に登るや馬に鞭をあて、そのまま三宝寺池に沈み、たちまち姿が見えなくなってしまうてるひつた。

また、明治の中頃に書かれた遅塚麗水の小説『照日塚』では、照日姫が落城の際、三宝寺池に飛び込んでいた。この物語発表の後、「照姫が金の鞍を背負って池に身投げした」とも地元では伝えられるようになった。

明治末、大正の初め、昭和の初めと、地元では「金の鞍」探しを行ったが、何も発見されなかった。

保護者の方へ

ふるさとねりまで語り継がれてきた伝説の一部を紹介しました。お子様に語り聞かせたり、お話に出てくる場所をご家族で散歩されてみてはいかがでしょうか。また、区民情報ひろば〔区役所西庁舎1階〕・郷土資料室〔石神井図書館地階〕・区立図書館（各図書館に所蔵の有無を確認してださい）などで、『練馬の伝説』（昭和52年、教育委員会発行）がご覧になれます。

